

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年6月12日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892000100		
法人名	社会福祉法人 筑南会		
事業所名	ケアサポート田村	ユニット名	
所在地	〒305-0854 茨城県つくば市上横場2290-6		
自己評価作成日	平成26年11月22日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_021_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892000100-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_021_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892000100-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年1月26日	評価機関 決 済 日	平成27年6月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

余暇活動が充実しており、おやつ作りから脳トレ・ゲーム・習字・ドライブや買い物ツアー等、楽しい時間を過ごしてもらっています。家族の希望により、夕食を提供してから送迎することで、家族の負担を軽減できるよう取り組んでいます。同法人の特別養護老人ホームの行事には全員が参加できるように支援し、気分転換を図っている。在宅生活が困難になった場合は、同法人の特別養護法人ホーム（新つくばホームとトレランス田村）と連携を取り、入所に向けての支援を行っています。1階に協力病院がある為、利用者や家族の安心に繋がっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小規模多機能型居宅介護の特徴を活かし、泊まりと通いをうまく組み合わせることで、利用者が継続して在宅で生活ができると同時に、地域から切り離されないように支援をしている。利用者の中には小学校からの同級生がいるなど、馴染みの友人との会話を楽しむ機会を持つように支援をしている。

事業所の周りは交通量が多いため散歩は難しいが、外食などを含めた外出行事をたくさん計画しており、利用者は楽しみにしている。

同一法人が開催する多くの行事にも参加し、他の利用者との交流も活発である。

アクティビティも種類が多く、利用者は行事と同時にアコーディオンやオカリナ演奏、習字、トーンチャイムなどを楽しんでいる。

平成26年7月以前は看取りを行わない方針だったが、家族等の要望もあり、職員との話し合いの結果、看取りを行うことになった。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に意識付け出来るように、入り口正面の壁面に、事業所独自に作成した基本理念を提示し、日々のケアで念頭に置きながら実践に繋げている。	家族や地域社会から切り離さない支援など、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、管理者や職員は取り組んでいる。 理念を2階玄関正面の壁面に掲示し、朝のミーティングで理念を唱和して確認をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	主要の行事等で近隣の方々を招待したり、アコーディオン等にボランティアの協力もあり。JA谷田部の農業祭や近隣での菊祭り等にも職員と共に出かけている。	町内会に加入はしていないが、事業所が開催する運動会やクリスマス会、雛祭りなどに近所の方を招待して近隣と交流をしている。 アコーディオンやオカリナ演奏、習字、トーンチャイムなどの地域のボランティアを受け入れ、地域との交流の輪を広げている。 利用者はクリスマス会で習った「トーンチャイム」を披露して楽しんでいる。 地元の農業協同組合の農業祭や近隣の菊まつり等に職員と一緒に出かけ、地域の交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域貢献が出来ていない状態である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、家族、民生委員、地域住民、市職員の参加の上開催し、利用状況・活動状況を報告し、参加者から出た意見をサービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議は3ヶ月に1回市職員や新旧民生委員、家族等、施設長、管理者、事務長、職員で開催されている。 家族等ではない推進委員から「どういう活動をやっているのかわからない」という意見に対し、行事内容を報告したり、写真を見せたりして理解してもらうよう努めている。 家族等から利用者が帰宅後、「おなかがよく」というので、おやつをもう少し出して欲しいという要望があり、量を増やすなどの対応をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型事業所連絡会に付きに1回参加し、情報交換を行っている。その中で、包括支援センター、社会福祉課及び社会福祉協議会の職員と連携を取り、急力を得ながら困難ケースに対応している。	管理者は月1回開催される、市主催の地域密着型サービス事業所連絡会に参加し、包括支援センターの職員や市担当者と連携を取って情報交換をしている。 市からの依頼で、認知症の方の家族から虐待があるため、一時的に離すことが必要な時に協力をしたり、利用者の家の中の環境が整っていないため、いるものといらないものを整理する時に市職員に立ち会ってもらうなど、連携しながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会において、身体拘束をしないケアを理解し、紳士に向かい合い取り組むようにしている。 生命の危険がある場合には、家族の同意を得て拘束時間（開始と終了）や本人の状況を記録するものとしている。	身体拘束排除に関する法人の研修会と事業所の研修会を年1回ずつ開催しており、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解している。 現在身体拘束が必要な利用者はいないが、身体拘束排除マニュアルや同意書、経過観察記録等の書類を整備している。 事業所は2階にあるため、1階玄関を施錠していないが、安全性を考慮して家族等の同意を得て階段の扉を施錠している。	階段の扉を施錠することは、「居室等に隔離する」にあたることから、利用者に精神的な弊害をもたらす場合も考えられるため、施錠しないケアの検討を期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で勉強会を行い、虐待防止について学び、職員が共通認識を持つようにしている。 自宅や事業所内で虐待の可能性が無いか十分注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社会福祉協議会の職員の協力の下自宅への訪問、事業所での本人の聞き取り時の立会いや支援員の訪問時の対応等、日常生活支援事業の活用を支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、サービス利用を開始する前に自宅を訪問し、利用者や家族の意向・ニーズ等を尋ねつつ、十分理解して頂けるよう説明している。契約は、本人・家族が納得してから締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、かつ、重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。定期的に利用者・家族へアンケートを実施し、意見を取り入れられるように努めている。	玄関に意見箱を設置しているほか、重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。 送迎時に家族等からの希望を聴くとともに、年1回家族アンケートを実施し、出た意見等を運営に反映している。 「お花見も良いが、美味しいものを食べに行くのも良いのでは」という意見を受け、お花見の後に回転ずしやファミリーレストランで食事をするなど、家族等の意見を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	つきに1回会議を開催したり、個別に意見や要望を汲み上げている。	管理者は月1回の職員会議で職員の意見や要望を聴取するだけでなく、日々の業務の中で意見等を聞く機会を持ち、運営に反映している。 入浴を拒否する利用者に対して、どのように対応すると受け入れてくれるかについての職員からの提案を取り入れ、日々の業務に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が安心して働けるような職場環境、条件の整備に努め、各自がやりがいを持ち、向上心を常に念頭において働けるよう整備されている。 尚、職員旅行を実施し、法人内の各部署職員とのつながりにも力を入れ、取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、職員一人ひとりの知識・技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	医療福祉事例検討会、地域密着連絡会等に参加し、地域の先生との連携を通じて、情報収集に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期利用時、誰もが抱く不安感を十分引き出し把握し、それらを解消して、安心して利用できるよう本人の話を傾聴する時間を多く持ち、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に行う訪問等により説明を丁寧に行い、家族も不安感を持たずに、安心してサービスを利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とのコミュニケーション、家族との密接な連携により、必要としている支援を検討し、様々なサービス利用の可能性や有効性を見出し、説明を行い、より有効なサービス利用を検討できるよう努力している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人となり、趣味嗜好を十分理解し、その中で利用者本人が出来る事を手伝って頂いたり、施設内での役割を持ってもらうことで家族的な雰囲気を醸し出し、安心・安楽な生活が出来るよう取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の利用時の様子・状態を蜜に報告し、家族に於ける介護の悩み、困難事を聞き、介護上のアドバイスを行い、事業所と協力して介護していく関係を構築するよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の名所へのドライブや初詣、花見、紅葉見学等の行事計画を立て、利用者がなじみの場所に出かけたり、兄弟や知人と会う機会を持てるよう支援している。	利用者が昔から行っていた初詣や花見、紅葉見学等の行事計画を立て外出している。 認知症の利用者が以前住んでいた所へ出かけ、昔を思い出してもらうなど、馴染みの場所との関係が途切れないように支援をしている。 利用者が墓参りを希望する場合には、家族等へ連絡して協力を得ながら墓参りが実現できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を良く把握し、より良い関係が築けるよう、食事席や利用者同士の関係に配慮して、安心して過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからも、その後の状況把握や施設入所相談等、フォローしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人の思いや意向等、職員間で情報を共有し記録している。	利用者からは日々の言動や表情、仕草、家族等からは「連絡帳」を利用して、思いや意向を把握するよう努めている。 自宅へ戻る前に排便の調整をして介護者の負担にならないように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の人となりや生活歴を、入所時に本人や家族から詳しく聞いてサービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から聞き取り、本人が出来る事はやって頂くよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎にサービス計画書を見直し、利用者家族に確認を得ている。要介護認定の更新時に合わせてサービス担当者会議で利用者や家族の希望を聞き、計画書を作成している。利用者の希望に沿うように、職員間で話し合っている。	介護支援専門員は毎月自宅を訪問してモニタリングをしており、モニタリング結果は業務日誌や介護日誌に記載して職員間で情報を共有している。 サービス担当者会議で利用者や家族等の希望を聴き、介護計画に反映している。 利用者の状況の変化などは職員で共有し、1ヶ月から3ヶ月でモニタリングをするとともに、必要があれば再アセスメントをして介護計画を変更している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子をケース記録、業務日誌、申し送りノートに記入すると共に、全職員で共有し変化等を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に沿って、ショートステイやデイサービス・ヘルパーや他のサービス等の提案を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や必要に応じて民生委員やボランティア等と連携するなどして、地域資源を有効に活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、病状の安定・改善に努めている。	事業所は、利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を尊重している。 登録者21名のうち6名がこれまでのかかりつけ医への受診を継続している。 受診は家族等が付き添うが、受診結果は電話や連絡帳で情報を共有している。 協力医療機関を受診した場合も、家族等へは電話や連絡帳で連絡し、情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しており、日常の健康管理や主治医との連携を行い、医療的な支援をしている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成し、利用者が入院した際、安心して治療できるように、そして、早期に退院できるように情報交換、相談、病院関係者との関係作りを行っている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人の特別養護老人ホーム入所待ちをしておられ、重度化した場合や終末期のあり方について、出来るだけ早い段階から、本人・家族・かかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。	これまで看取りを行わないという方針だったが、平成26年7月から利用者の要望もあり職員で話し合った結果、看取りを実施することになった。 契約書に看取りに関する説明がないことや、重要事項説明書の看取りの項目は以前のままであり変更がされていない。	看取りを実施することを契約書や重要事項説明書に明記し、利用開始時に看取りに関してや段階的な合意について説明することを期待する。 「看取りに関するマニュアル」の作成や、職員の研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や自己発生時に備え、救命講習を受けている。また、緊急時の連絡網を整備、初期対応の訓練を定期的に行っている。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署員立会いの下、日中・夜間の避難訓練を行っている。地域住民へも参加のお知らせを出して、出来るだけ参加できるように依頼を行っている。	年2回消防署立会いのもと、日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、問題点や課題などを記録して検討をしている。 災害訓練に近隣住民や近くの花屋、本屋、パチンコ店などに協力を呼びかけているが、参加を得るまでには至っていない。 災害に備え、懐中電灯や毛布、米など1週間分を事業所内に備蓄している。	事業所は2階にあるので、災害時の避難には困難が予測されるため、災害時に多くの住民の協力が得られることが重要である。 これまでも、近隣住民や商店街の方々に協力を依頼しているが、十分な協力体制が得られていない状況なので、今後も協力が得られるよう働きかけを継続することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、分かりやすい言葉で話しかけ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応している。	職員は利用者の人格を尊重し、誇りを損なわないような言葉かけをしている。 トイレ誘導時には利用者の耳元で声かけをし、支援をしている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いやりや希望を表せるように働きかけたり、意思を確認し、納得しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が本人のペースで日々生活し、職員も利用者の意思や希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	付き2回散髪サービスを依頼。希望を聞き対応している。毎朝の整容・着替えの援助、デンセイの髭剃りの支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好に合わせ、栄養バランスの良い食事を提供している。嚥下等への配慮として、刻んだりトロミをつけたり、自助具を利用することにより、スムーズに摂取できるように支援している。	市内にある同一法人他施設の管理栄養士が、利用者の状態に合わせて献立を作成している。昼食と夜食は他施設の厨房で調理したものを提供しているが、朝食は事業所で調理をしている。月に1回の「つくば御膳」や肉か魚を選択できる日があるほか、「季節の料理」として鍋を楽しむ日もある。敬老会やクリスマス会などの行事食があるほか、年2回外出に合わせて回転ずしなどを楽しんでいる。「ポケットファームどきどき」へ行った時には、コロッケを買ってきて事業所で食べることを楽しんでいる。利用者は食後、食器拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量チェックを行っている。その日の体調や個々の病気等にも十分配慮し対応している。摂取が進まない時、時間をずらしたり、代替品を利用し摂取量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ・誘導を行い、入歯の清掃・うがいの見守り介助を行う事で、口腔内の清潔を保持している。家族と相談し必要に応じて治療、義歯の補修等支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、声かけや誘導を行っている。後始末が不十分な方に清拭を行い、清潔保持の支援をしている。夜間、居室にポータブルトイレを設置したり、尿瓶を置いたり、巡回・見守りしながら、自立支援を促している。	職員は「排泄チェック表」を作成し、利用者の排泄パターンを把握してトイレに誘導している。宿泊時の夜間のみオムツを使用する利用者が2名いるが、その利用者も昼間はリハビリパンツでトイレで排泄することを支援している。日中はリハビリパンツの方が16名、布パンツの方が7名おり排泄の自立を支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連携し、排泄記録表を確認しながら対応している。食事の摂取（水分）量のチェックを行い、体操を日課として行い、協力病院の協力の下、投薬や浣腸等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望や状況に応じて支援を行っており、毎月1日～5日は全国の温泉の素を利用し、雰囲気を変えて対応している。「入浴」との言葉に拒否する利用者は、声かけを工夫し入浴できるよう支援している。	利用者の受診やその日の行事などにもよるが、基本的に週2回から3回午前中に入浴ができるように支援をしている。入浴を拒否する利用者には、声かけの時間をずらしたり、他の職員が声をかけたりして入浴につながるように工夫をしている。月初めには全国温泉の素を利用したり、柚子湯など季節を感じるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて空き居室を利用したり、ホールの畳部分に布団を用意し、宿泊以外の方にも休む時間を設けている。夜間、個人のペースにあわせて就寝時間を設定。本人の好みに合わせ、暗さを調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、服薬の管理を分かりやすい状態にし、間違いが無い様取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の職歴、生活環境等を理解し、出来るだけ個別対応を心がけている。趣味を取り入れ、作品を作ったり、友人に会いに行ったり、外出行事に参加することで季節を感じたり、一緒に調理をして楽しめるように工夫している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画にある外出行事の他、ドライブしたり地域行事の見学に言ったりしている。同法人の施設の行事（盆踊り・敬老会・運動会・クリスマス会等）に参加できるよう支援している。	事業所周辺の道路は交通量が多く、安全性の面から近隣での散歩は行っていないが、年間計画にある外出行事のほかに、地域のイベントをインターネットで調べ、希望者がいればドライブや見学をしている。 年に1度、家族等や同一法人の職員の協力を得て日帰りの外出をされており、昨年はお魚市場で海鮮丼を食べに行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にはお金は所持しないように本人にも家族にも了承して頂いている。外出や外食、買い物ツアー等、必要に応じて購入・支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は、本人が直接電話で話せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは季節感を感じられるように、壁画や季節の飾りつけや花を飾るなど工夫している。	居間兼食堂では、利用者が書いた習字を展示していたり、季節を感じる絵や花を飾ったり、壁に大きな字で書かれたカレンダーを貼っていたりと、月日がわかり易いよう工夫をしている。 居間の一角には畳の小上がりがあり、利用者はそこで昼寝をするなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	朝、その日の利用者の名札をテーブルの上に置き、気の合った利用者同士が一緒になれるようにしたり、一人ひとりの性格を考慮し、テーブルや席の配置をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも清潔感のある居室を維持できるように清掃と寝具の整頓を毎朝行っている。写真や飾り物等、本人にとって安心や居心地良く過ごせるように配慮している。	泊まりの部屋には、ベッドや収納箆笥などが備え付けてある。 宿泊が長くなる利用者は、自宅で使い慣れた毛布や化粧箱、タペストリー、お花などを持ち込み、居心地よく過ごせる場所となっている。 宿泊者が自分の部屋を認識できるよう表札を掛け、安心して泊まれるよう配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消をし、車椅子や歩行器で、自立した移動ができやすい環境作りをしている。 夜間、トイレの場所がわかりやすいよう目印を付け、一人でもトイレに行けるように支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアサポート田村

作成日 平成27年6月21日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	階段の扉を施錠することは、「居室等に隔離する」に当たることから、利用者の精神的な弊害をもたらす場合も考えられる為、施錠しないケアの検討を期待する。	利用者の危険等を一番に考慮し、施錠をしないケアの取り組みを行っていく。	利用者や家族に対し、階段からの転落の危険性がある旨のお知らせを行い、同意書を作成する。危険が極力少ない時間帯に解錠する時間を試験的に設ける。	平成27年10月
2	12	看取りを実施することを契約書や重要事項説明書に明記し、利用開始時に看取りに関してや段階的な合意について説明することを期待する。	看取りに関する書類整備と職員研修を行い、チームで支援していく。	看取り実施について、契約書・重要事項説明書・マニュアルの整備と職員研修を行う。	平成27年7月
3	13	事業所は2階にあるので、災害時の避難には困難が予測されるため、災害時に多くの住民の協力が得られることが重要である。	地域住民の方々に対し、避難訓練の周知と協力を得ていく。	近所のNさんの協力を得て、地区長さんと一緒に避難訓練のお知らせを配り、参加・協力の依頼を行う。トランス田村と協定書を交わし、協力体制を整える。	平成27年7月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。